

平成30年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	標準電波による無線局への高精度周波数の提供			担当部局庁	国際戦略局		作成責任者			
事業開始年度	平成11年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	技術政策課		課長 坂中 靖志			
会計区分	一般会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第1項第67号・国立研究開発法人情報通信研究機構法第14条第1項第3号・電波法103条の2第4項第5号			関係する計画、通知等	国立研究開発法人情報通信研究機構中長期目標(平成28年3月)・国立研究開発法人情報通信研究機構が達成すべき業務運営に関する目標を達成するための計画(第4期)					
主要政策・施策	IT戦略			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国家標準である周波数標準値を定め、標準電波を放射し、電波の適正な利用の確保を図る。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	総務省設置法及び国立研究開発法人情報通信研究機構法の規定に基づき、周波数標準値の設定、標準電波の放射及び標準時の通報に関する事務の実施に当たり、標準電波による無線局への高精度周波数の提供を行う。 具体的には、国立研究開発法人情報通信研究機構において周波数標準値を設定し、「おおたかどや山標準電波送信所(福島県)」及び「はがね山標準電波送信所(佐賀県/福岡県)」から高精度な周波数を長波帯の標準電波として放射する。									
実施方法	委託・請負									
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求				
		当初予算	430	430	561	571	560			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計	430	430	561	571	560				
	執行額	426	423	530						
執行率(%)	99%	98%	94%							
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	99%	98%	94%							
平成30・31年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由						
	電波利用技術研究開発等委託費	571	560	設備投資費の増減によるもの						
	計	571	560							
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標30年度	目標最終年度		
	おおたかどや山送信所周波数安定度: 1.0×10^{-12} 以内で提供する。	周波数安定度	成果実績	10^{-14}	0.5	0.4	0.4	-	-	
			目標値	10^{-12}	1	1	1	1	-	
達成度			%	100	100	100	-	-		
根拠として用いた統計・データ名(出典)	成果指標である周波数安定度とは、国立研究開発法人情報通信研究機構が維持する原子周波数標準器により定められる周波数標準値に対する偏差である。実際の周波数の比較データ(業務成果報告書で報告)を根拠とする。									
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標30年度	目標最終年度		
	はがね山送信所周波数安定度: 1.0×10^{-12} 以内で提供する。	周波数安定度	成果実績	10^{-14}	0.3	0.7	0.7	-	-	
			目標値	10^{-12}	1	1	1	1	-	
達成度			%	100	100	100	-	-		
根拠として用いた統計・データ名(出典)	成果指標である周波数安定度とは、国立研究開発法人情報通信研究機構が維持する原子周波数標準器により定められる周波数標準値に対する偏差である。実際の周波数の比較データ(業務成果報告書で報告)を根拠とする。									
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							チェック			

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込
	おたかどや山送信所 発射時間率:2局体制により標準電波送信所の安定した運用を確実に実施し、長波帯標準電波の発射による高精度な周波数等を提供する。	活動実績	%	86.6	98.3	98.5	-	-
		当初見込み	%	85.3	97.7	97.7	97.7	97.7
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込
	はがね山送信所 発射時間率:2局体制により標準電波送信所の安定した運用を確実に実施し、長波帯標準電波の発射による高精度な周波数等を提供する。	活動実績	%	90.2	97.8	98	-	-
		当初見込み	%	90	97.7	97.7	97.7	97.7
単位当たりコスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込	
	年間執行額(千円)÷2(局)÷8,760(時間(1年間)) (年間執行額を2局で除算し1局当たりのコストを算出し、当該コストを年間時間で除算することで単位時間当たりのコストを算出する。)	単位当たりコスト	千円/時	24.2	24.1	30.3	32.6	
		計算式	千円/局/時間	426,000÷2÷8,784	423,000÷2÷8,760	530,000÷2÷8,760	571,000÷2÷8,760	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	V. 情報通信(ICT政策)								
		施策	5. 電波利用料財源による電波監視等の実施							
	測定指標		定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 30年度	目標年度 31年度
		標準周波数の精度(周波数標準値に対する偏差) ※右欄の実績値は、欄に示す値以内のものとする。	実績値	10 ⁻¹³	1	1	1	-	-	
			目標値	10 ⁻¹²	1	1	1	1	1	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	標準電波を発射し、高精度周波数の提供を行うことにより、無線局の安定的な運用を可能とすることで、良好な電波利用環境の整備・維持に寄与する。									
	改革項目	分野:	-							
		KPI (第一階層)		単位	計画開始時 -年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-		
KPI (第二階層)			単位	計画開始時 -年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度		
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-			
達成度	%	-	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	周波数のひっ迫が社会的な問題となっているが、本事業により無線局の周波数の較正等が行われることにより、無線局の適切な運用が図られ、一層の周波数有効利用が期待されることから、社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国家標準である標準周波数を設定し、標準電波を発射することは、国が一元的に管理すべき性質のものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は電波の適正な利用の確保に関し無線局全体の受益を目的としていることから公共性の高い事業であり、政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業であり、また、電波の適正な利用の確保は喫緊の問題であることから、政策体系の中で優先度の高い事業である。

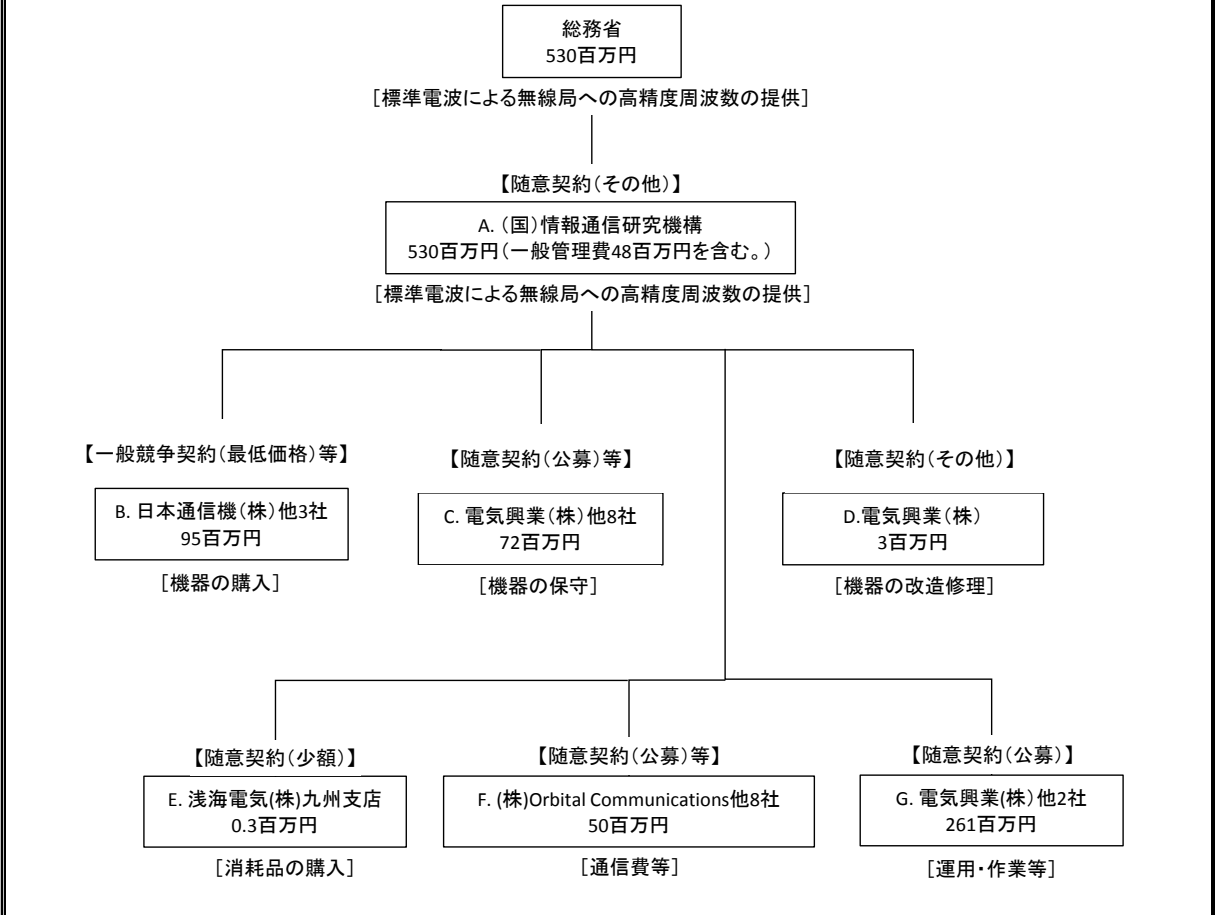
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	○ 無 有	本事業は、国立研究開発法人情報通信研究機構法第14条第3項にて「周波数標準値を設定し、標準電波を発射し、及び標準時を通報すること。」と情報通信研究機構の業務として定められており、委託先は同機構に特定されるものである。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	標準電波による周波数標準は無線局の周波数調整に利用され、無線局全体の受益を目的とすることから電波利用料を財源としており、妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	国立研究開発法人情報通信研究機構において、機器購入見直し等運用体制を合理化しコスト削減に努め、一般競争入札や随意契約では公募を実施する等適切な支出となるよう引き続き努めており、本事業の単位当たりのコスト等の水準は妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	資金は全て国立研究開発法人情報通信研究機構を通じて支出され、正しく精査されているため合理的である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的に即し真に必要なものに限られているかを確認して委託額を確定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	- -	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	常駐する人員の合理化を図り、機材の更改計画の見直しを行う等効率化に向けた工夫を行っている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	平成11年郵政省告示第382号第6項第1号の規定による標準電波の精度を十分に満たしている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	必要最低限の活動停止時間を除き、安定して継続した活動を行っており、活動実績は適切である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	安定して継続した活動により、整備された施設は十分に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名 事業番号 事業名	-	
点検・改善結果	点検結果		本事業により無線局の周波数の較正等が行われることにより、無線局の適切な運用が図られ、一層の周波数有効利用が期待されることから社会のニーズを的確に反映していると認められる。 委託経費の執行にあたっては、事前に予算計画書を提出させるとともに、年度途中及び年度末に委託費の支出に関する証憑書類を提出させ、総務省担当職員が詳細な確認を行うことにより、経費の執行の適正性を確保している。
	改善の方向性		総務省設置法等の規定に基づき、国家標準である周波数標準の設定及び標準電波の発射を高精度、安定的かつ効率的に行うことができるよう一層の努力を行う。
外部有識者の所見			
<p><公開プロセス評価結果> ●評価結果:事業内容の一部改善 ●取りまとめコメント: ・ 調達の競争性向上とコスト管理の改善が必要である。 ・ 利用者サイドから見たアウトカム設定の検討が必要である。</p>			
行政事業レビュー推進チームの所見			
改善部の内容	公開プロセスの評価結果を踏まえ対応を検討すること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
執行改善等	・ 民間企業の調達手続への参加機会を増加させるため、本事業に係る翌年度の設備更新予定を翌年度予算の政府案が閣議決定された後にNICTのホームページに掲載することとする。また、コスト管理を改善するため、設備投資費と設備保守等の運用費を区分して管理することとする。 ・ 利用者が標準電波を受信した際の周波数偏差(受信側の周波数安定度)をアウトカムとして設定することを検討中。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	0124	平成23年度	0125	平成24年度	0121	平成25年度	0126
平成26年度	0126	平成27年度	0124	平成28年度	0121		
平成29年度	総務省 (0123)						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・用途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.(国)情報通信研究機構			B.日本通信機(株)		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
雑役務費	送信所の運用・作業等	260.8	機器購入費	長波標準電波送信信号発生装置の調達	43.7
機器購入費	機器の購入	94.9	機器購入費	長波標準電波モニタ受信機の調達	2.5
保守費	機器の保守	72.3			
通信費	通信費、光熱費等	50.4			
一般管理費	一般管理費	48.2			
改造修理費	機器の改造修理	3.1			
消耗品費	消耗品の購入	0.3			
計		530	計		46.2
C.電気興業(株)			D.電気興業(株)		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
保守費	長波帯標準電波送信所送信所設備等保守(送信、機械、電気、土木)	43.5	改造修理費	おおたかどや山標準電波送信所の航空障害灯閃光装置の補強修理	2.1
			改造修理費	はがね山標準電波送信所のアンテナ鉄塔用の避雷針の修理	0.9
			改造修理費	アンブモジュールの修理	0.1
計		43.5	計		3.1

E.浅海電気(株)九州支店			F.(株)Orbital Communications		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
消耗品費	避雷器	0.3	通信費	H29高精度衛星双方向時刻比較専用回線サービス	24.9
			手数料	電波利用料等手数料	0.6
計		0.3	計		25.5
G.電気興業(株)			H.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	長波帯標準電波送信所送信施設等監視運用作業	254.1			
計		254.1	計		0

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(国)情報通信研究機構	7012405000492	標準電波による無線局への高精度周波数の提供	530	随意契約 (その他)	-	-	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	日本通信機(株)	4021001025699	長波標準電波送信信号発生装置の調達	43.7	一般競争契約 (最低価格)	1	98.7%	-
2	日本通信機(株)	4021001025699	長波標準電波モニタ受信機の調達	2.5	一般競争契約 (最低価格)	1	99.5%	-
3	丸文(株)	8010001057337	基準信号発生システムの調達	32.6	一般競争契約 (最低価格)	1	100%	-
4	丸文(株)	8010001057337	セシウム原子時計の調達	12	一般競争契約 (最低価格)	1	99.6%	-
5	丸文(株)	8010001057337	周波数分配器(10274)の調達	0.6	随意契約 (少額)	-	-	
6	フレックタイム(株)	6050001024946	標準時時刻表示装置の調達	2.7	一般競争契約 (最低価格)	1	90.3%	-
7	太陽計測(株)	6010801006420	デジタル記録計の調達	0.8	随意契約 (少額)	-	-	

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	電気興業(株)	4010001008723	送信所設備等保守(送信、機械、電気、土木)	43.5	随意契約 (公募)	1	100%	-
2	宇宙技術開発(株)	3011201000611	標準時計測システムソフトウェア保守	13.8	随意契約 (公募)	1	97.3%	-
3	丸文(株)	8010001057337	高性能セシウム原子時計メンテナンス	8.7	随意契約 (その他)	-	-	
4	日本通信機(株)	4021001025699	送信信号発生系及びモニタ系保守点検作業	3.6	随意契約 (公募)	1	100%	-
5	明星電気(株)	2010001007784	気象情報収集システム保守点検作業	1.7	一般競争契約 (最低価格)	1	96.9%	-
6	今泉電気管理事務所	-	はがね山標準電波送信所電気設備点検保守	0.4	随意契約 (少額)	-	-	
7	一般財団法人東北電気保安協会福島事業本部	2370005003380	おたかどや山標準電波送信所電気設備点検保守	0.4	随意契約 (少額)	-	-	
8	富士ゼロックス(株)	3010401026805	Red Hat Enterprise Linux ワークステーション	0.2	随意契約 (少額)	-	-	
9	富士ゼロックス(株)	3010401026805	Red Hat Enterprise Linux サーバー	0.2	随意契約 (少額)	-	-	
10	レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ(株)	9010401111898	計測システム用計算機ハードウェア保守サービス	0	随意契約 (少額)	-	-	

